

第 5 次朝来市行財政改革大綱案（たたき台）レジュメ

第 8 回会議（6 月 19 日）審議の流れ

- 「はじめに」について
- 「第 1 章 策定の背景」に関する審議
 - I 第 4 次行財政改革の検証（事務局説明→意見交換・質疑応答）
 - II 特筆すべき社会環境の変化（事務局説明→意見交換・質疑応答）
- 「第 2 章 大綱」に関する審議
 - I 基本的な考え方（事務局説明→意見交換・質疑応答）
- 次回審議事項について
 - 第 2 章 II 基本方針

○「はじめに」について

市長名で別途作成のため“作成中”の表記 →中間答申案作成頃に共有予定

○「第 1 章 策定の背景」に関する審議

第 1 章…第 4 次行革大綱における成果と課題の検証とあわせて、本市を取り巻く社会状況の変化を整理し、策定に至る背景を示す章である。

【2 ページ目】

I 第 4 次行財政改革の検証

1 第 4 次行革大綱（計画期間：R4～R8）の概要

位置づけ

持続可能な行財政運営のもとで市民福祉の増進を図り、『第 3 次朝来市総合計画』で掲げる将来像の実現に向けた手段

基本方針

歳入確保の推進、歳出の効果的・効率的な執行職員の育成と組織力の強化

実施計画

取組数 29 項目

2 成果と課題

成果：積極的な歳入確保及び歳出の効果的かつ効率的な執行により、将来負担を見据えた健全な財政運営を堅持。

課題：デジタル化の推進、働き方改革といった分野においては、より一層の質的な改革が必要。

※目標達成率は実施計画 R7 進捗状況を踏まえて算出

第5次朝来市行財政改革大綱案（たたき台）レジュメ

【参考】

- ・実績効果額（実施計画に示す参考値） ※実施計画 R7 進捗状況を踏まえて算出
- ・財政健全性の維持 ※実施計画 R7 進捗状況を踏まえて算出

【3ページ目】

- ・基本方針及び項目ごとの主な成果と課題

審議 POINT

- ・計画期間内の“主な成果と課題”を選出して記載されているか
※R7 検証結果及び R8 年度までの実績を記載

【基本方針1】歳入確保の推進

（1）既存歳入の確保

成果：市税収納率の向上…電子化や徴収専門員を活用した効率的な徴収
使用料・手数料の見直し

課題：債権管理…徴収技術の継承

キャッシュレス決済…支払いの多様化と事務処理システムの構築

（2）新たな歳入確保

成果：ふるさと納税…運用形態の見直し、的確なニーズの把握、納税額向上
有料広告制度…掲載企業数の増加、ケーブルテレビにおける広告開始

課題：企業版ふるさと納税…職員が積極的に財源確保に取り組める仕組み

公有財産…未利用財産の現状把握と整理、財産処分推進に関する研究

【基本方針2】歳出の効果的かつ効率的な実行

（1）既存事業の適正化

成果：総合計画…第3次朝来市総合計画【改訂版】の策定

行政評価…市民意識調査の反映、研修の実施による職員理解の促進

補助金等適正化…447件の補助金等評価の実施

公共施設再配置…公共施設マネジメントの推進、延床面積の削減

課題：BPR（業務改革）…目標値15件未達成

分権型社会システム…地域協働の枠組み拡大、民間連携

【4 ページ目】

（2）デジタル化の推進

成果：デジタル化による BPR…AI チャットボット、証明書交付機等

文書管理…電子決済の導入、文書管理システムの導入（R8 年度）

オンライン申請…オンライン申請システムの活用

課題：業務効率化ツール…職員に対する利用ルールや活用方法の周知

オープンデータ…地域課題解決や市民の利便性向上につながるデータの
優先公開

（3）健全な財政運営

成果：財政運営…財政収支見通しの策定、財政構造の分析

地方債残高…繰上償還による縮減

課題：企業会計…中長期的な投資と財源確保の均衡維持

【基本方針3】職員の育成と組織力の強化

（1）社会経済情勢の変化に対応した職員人材育成

成果：人材育成…人材育成カリキュラムの質的な向上

課題：人事評価…評価者と被評価者の認識乖離

（2）最適な行政サービスを提供できる組織体制の構築

成果：組織の最適化…こどもみらい部創設、総合政策課とデジタル戦略課の統合

職員の定員管理…第4次定員適正化計画の策定、方向の転換

課題：職員の定員管理…職員数の確保

働き方改革…職員の業務負担軽減、働きやすい職場環境の整備

業務支援体制…横断的な支援体制の検討

【5 ページ目】

3 財政状況 ※R7 決算（7 月確定）を反映

・記載予定のグラフ

一般財源の推移、歳出総額の推移、地方債及び基金現在高の推移

【6 ページ目】

Ⅱ 特筆すべき社会環境の変化

1 朝来市の人口

- ・現状：26,515 人（令和 7 年国勢調査速報値）
※令和 2 年国勢調査確定値（28,989 人）から 2,474 人減少
- ・要因：自然減の進行（出生数の減少、高齢者の死亡数の増加等）
社会減の進行（進学や就業による若者の転出等）
- ・記載のグラフ
朝来市の人口推移と推計、朝来市の年齢 3 区分別人口推移と推計（構成比）

【7 ページ目】

2 職員数の状況

- ・現状：職員数：322 人（R7）→目標 335 人（R10）
※『第4次定員適正化計画』で方向転換
第4次行革大綱策定時の目標職員数：320 人（R7）
- ・課題：職員不足の顕在化
少子高齢化、権限委譲による業務量増加、採用困難に伴う職員数減少

3 ICT（情報通信技術）の進展

- ・現状：全国的な行政サービスデジタル化の加速
→SNS の普及、AI 及び生成 AI 技術の進展、RPA の導入
- ・課題：デジタルデバイドの拡大や情報リテラシーの世代間格差の深刻化
→誰もが DX の恩恵を享受できる包括的なデジタル環境の整備が必要

4 働き方の多様化

- ・現状：限られた職員数で質の高い行政サービスを維持しなければならない
- ・課題：正規職員の実質的な労働力の減少
（育児や介護、メンタルヘルス不調等による休職者や時短勤務者の増加）
↓
①職員の心身の健康と働きがいの両立が必要
→職員一人当たりの業務量負担の軽減、柔軟に働ける職場環境整備
②次世代を担う人材育成と組織力の強化

【8ページ】

○「第2章 大綱」に関する審議

第2章…第4次行革大綱の成果を継承しつつ、課題と新たな社会環境の変化を踏まえて策定する『第5次朝来市行財政改革大綱』の内容を示す章。

＊第5次大綱の位置づけ

- ・第3次朝来市総合計画【改訂版】に掲げる将来像の実現を目指すための手段
- ・職員が行財政運営の現状と課題に対する共通認識と危機感をもって、主体的に行動するための方向性を示すもの。

I 基本的な考え方

1 目的と目標

- ・目的…①持続可能な行政サービスを提供すること
②多様化する市民ニーズや複合化する課題への対応力を向上させること
- ・目標…将来にわたって誰もが安心と豊かさを実感できるように
質の高い行政サービスを安定的に提供できる体制の構築

2 自治基本条例の順守

自治基本条例第3条に定められた3つの基本原則を順守

→参画と協働、情報の共有、自立と共助

3 公平性・公正性の確保

さらなる行政サービスの質的向上や業務改革の推進

- ・多様な視点や発想を持ち寄り、意見を交わし合える組織であること
- ・誰もが尊重され、性別・年齢・役職・働き方等にとらわれることなく、能力を最大限発揮できる職場環境であること

4 将来を見据えた計画（第5次大綱の計画期間であるR9～R13）

- ・歳入面：人口減少等に伴う市税の減少や地方交付税等による縮減
→約580,000千円の減少
- ・歳出面：義務的経費の増加、新たな行政課題に対する財政需要の増加
→人件費約116,000千円の増加、扶助費で約12,000千円の増加
公共施設の老朽化に伴う大規模な修繕費 など

このような状況下において、質の高い行政サービスの安定的な提供を可能とする体制構築を図るための基本方針を設定。

第5次朝来市行財政改革大綱案（たたき台）レジュメ

○次回審議事項について

・次回審議：第2章Ⅱ基本方針

→次回会議までの送付資料

①第4次朝来市行財政改革大綱実施計画（R7進捗状況）検証結果一覧表

②会議用レジュメ（第2章Ⅱ基本方針分）

用語解説	
あ行	・ ICT（情報通信技術） Information and Communication Technologyの略。コンピューターやインターネットに関連する情報通信技術。 ・ AI（人工知能） Artificial Intelligenceの略。コンピューターがデータを分析し、推論（知識を基に、新しい結論を得ること）・判断、最適化提案、課題定義・解決及び学習（情報から将来使えそうな知識を見つけること）等を行う、人間の知的能力を模倣する技術。 ・ SNS Social Networking Serviceの略。利用者間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援するインターネットを利用したサービス。 ・ オープンデータ 行政や公的機関が保有する情報を、社会で効果的に利用できるよう機械判読に適した形式かつ二次利用が可能なルールで公開されたデータ。
さ行	・ 生成AI AI（人工知能）が学習データに基づいて新しいコンテンツを生成する技術。
た行	・ DX Digital Transformationの略。デジタル技術やデータを活用し、業務プロセスやビジネスモデルに革新的な変化をもたらすこと。 ・ デジタルデバイド ICT（情報通信技術）の利用において利用できる人とできない人の間に生じる差。
は行	・ 働き方改革 労働者がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現しようとするもの。
ら行	・ RPA Robotic Process Automationの略。人間がパソコン上で行うマウスやキーボードの操作手順を記憶させ、事務作業を自動化するもの。
わ行	・ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） 仕事での責任を果たしつつ、育児、介護、シュミ、休養などの私生活も充実させる生き方を指す。